内閣文庫
和書
二〇〇八
函
類
號
冊
架

古蹟調査特別報告

滿洲及び東部西伯利亞調査報告

第二冊

朝鮮總督府

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

292.21
185

292
200081
185

古蹟調査特別報告

北滿洲及び東部西比利亞調査報告

第二册

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鳥居氏特別報告正誤表

頁	行	誤	正
一	一一	殖民地	植民地
一四	五	烏蘇里線	烏蘇里線
一五	三	認たるもの	認めたるもの
同	一	齊々哈爾	齊々哈爾
三三	八	黑爾根	墨爾根
三四	五	よ、て	よりて
		黑江龍	黑龍江

北滿洲及び東部西伯利亞調査報告

朝鮮總督府古蹟調査委員　鳥居龍藏

東部西伯利亞は一方朝鮮に於て我が日本と接壤し、一方一衣帶水の日本海を隔てゝ我が本州、北海道、樺太等と相望み、地域最も接近せるを以て、政治上、經濟上其の他各般の方面に於て、彼我の關係最も密切なるものあり、殊に人類學、人種學、考古學等の方面より觀て、更に一層此の感を深からしむるは亦た辯を俟たず。然れども、從來東部西伯利亞の事情は殆んど世に知られず、英佛獨米等の文獻若くは識者の研究調査に徵するも、亦邈として其の眞相を捉ふるに由無し。故に東部西伯利亞なるものは學術上一種の謎の如きものにして、之と密切なる關係を有する我が國は勿論、斯學上よりも早晩如何にかして此の秘密を開くの必要ありしなり。

從來露西亞の殖民地に對する政策は、一種の門戸閉鎖主義にして、他國人に向つて容易に其の地方を開放せず、偶々他國人にして之に入るものある時は、嚴に密偵を附隨せしめて巨細に其の擧動を監視し、寫眞を撮影するは勿論、スケツチすることすらも許さゝりしなり。此の如き事情の下にありしが爲めに、實地に就きて東部西伯利亞を調査す

るは他國人に於て殆んど不可能こせられたりき。此の地方が一八六〇年の北京條約に依りて、全然露國の手に歸せしより茲に六十二年、而も其の事情を今日まで詳かにするを得ざりしは此の露國の閉鎖主義其の主たる一原因たりしと謂ふべし。尙ほ露西亞の言語及び文字が他の歐米諸國と性質を異にするが爲めに、他國人をして容易に其の事情を窺知すること能はざらしめしものも、亦有力なる一原因たるを失はざるなり。

余が一個の立場より觀れば、東部西伯利亞が我が帝國と政治、經濟、交通其の他に於て關係の有無如何に關せず、苟も學術上必要ありとせば、進んで之が調査研究に着手せざるべからず、是れ學者として當然の責任なり。故に余は此の點に於て、夙に東部西伯利亞調査の必要を感じ、該地方に關する旅行記各種の著述報告論文等、其の名高きものは出來得るだけ之を蒐集して、閲讀研究すること茲に多年。而も百聞は一見に如かず、該地方の實地探究は余が年來の宿望として夢寐に忘るゝ能はざりし所なり。然るに歐洲大戰の爲め、露西亞帝國の瓦解、過激派の勃興等種々の原因に由りて、西伯利亞の情勢は大に曩日と趣きを異にし、殊に我が政府がチエツクスロヴアック兵の援助並びに東部西伯利亞の治安維持の目的を以て出兵するに及び、該方面の要地は概ね我が陸海軍隊の駐屯する所となりて、頗る我が邦人の旅行に便宜を得るに至れり。苟くも我が邦人にして此の地方に事を爲さんと欲せば、實に逸すべからざる絶好の機會にして、正に是れ空前にして或は絶後なるやも知るべからず。此の如き好機會に於て此の地方に調査旅行を試みざるは、學者として最も耻づべきことゝ謂ふべし。是に於て余は責任の重きを感じ多年夢寐せる宿望を達せんが爲めには、萬難を排しても此の機を逸すべからざるを思ひ、今回東部西伯利亞の實踐調査を決行したる所以なり。

此の旅行は大正八年六月八日東京を出發せしより、十二月十三日東京に歸着せるまで、殆んど半ヶ年以上に達せり。此の間山川の險を冒し氣候風土の異と鬪ひ、間々過激派の横行せる地方若くは疫癘の流行地に出入して、天然人爲の危險少なからざりしと雖も、幸に一身無事にして聊か目的を達したるは、余の竊かに慶する所なり。此の調査の結果は、固り僅に輪廓を窺ひたるに過ぎずと雖も、少くとも之に依つて余が從來懷ける所の疑問を解決し、斯學の上に於て利益を得たること少なからずと信ず。此のごとたるや、單に學術上に貢獻するに止まらず、延いて我が日本の該地方に對する政治、經濟其の他の上に於ても、甚大の關係あるものと考察す。此等の調査の詳細は、目下材料の整理中なるを以て、今驟かに之を發表すること能はずと雖も、一先づ其の概略を叙して參考に供せんと欲す。

余が今回東部西伯利亞旅行の目的は、人種學、考古學等の各方面より該地方の實際を調査するにありて、豫じめ五ケの條件に依りて之を逐行せんこと期せり。卽ち第一は其の土地を實際に踏査したきこと、第二は博物館に蒐集せる標本に就きて精しく調査したきこと、第三は圖書館に就きて該地方に關する圖書を調査したきこと、第四は成るべく學會及び學者を訪問して知識を交換し且つ將來の聯絡を圖りたきこと、第五は該地方に關する圖書を購求したきこと、此の五條件は余が希望の主なる點なりしなり。此等の實行に方りて、蕫露西亞帝國の時代よりも甚だ容易なりしは豫期せし所に違はざりき。然れども現時の西伯利亞は必ずしも平穩無事の天地に非ずして、過激派の雰圍氣隨處に瀰漫し、或は鐵道を破壞し或は船舶を襲擊して、旅行者に危害を加ふること少なからず、又虎列拉病の流行せる地方もありて、其の猖獗の度人をして戰慄せしむるものあり、此等の危險を冒して調査を進むるは、決して容易の業に非ざりしなり。隨つて費用も之に伴つて多額を要し、調査の進行上障礙を感じたること少なからず。而も余は出來得るだけベストを盡して此の天然人爲の迫害に對抗し、略ぼ豫期の目的を達したるは、茲に一言附記せんとする所なり。

余の東京を出發したるは大正八年六月八日にして、十一日敦賀より汽船に搭じ、十三日を以て浦鹽斯德に到着したり。爾後同月三十一日まで該地に滯在し、其の間有名なる東洋學院の訪問、博物館の調査、學者との會談等に勉め、尙ほ郊外を少しく調査し、更に舟にてアムールスキー灣を横斷してヤンコフスキー半島に上陸し、有史以前の遺蹟を調査したり。此の遺蹟は貝塚にして、極東大陸に於ける今日唯一の大貝塚なり。明治十二年の頃、マルガリトフといへる學者始めて之を發見し、其の研究調査の結果は同十六年論文として發表せられ、爾來ヤンコフスキーの貝塚は世界の學界に著名なるものとなれり。余は此の調査を終りて再び浦鹽に歸り、それより烏蘇里線に搭じてアムール本流の方面に向はん豫定なりしが、時不幸にして過激派烏蘇里線を脅かして線路を破壞する等の變あり。浦鹽に駐在せる我が軍司令部は、余が此の方面の旅行を以て危險なりとし之を中止するの可なるを忠告せられたり。余は豫定の齟齬に會して頗る當惑したりしが、幸にも七月一日高柳少將の一行オムスクに向つて出發することゝなり、同將軍より此の機會を利用して先づ西部方面の調査に着手すべきを勸說せられ、直ちに同意して汽車に同乘を乞ひ、豫定を變更して西部方面に向ふことゝなれり。

七月一日汽車に搭じて浦鹽を出發し、東淸線に依りて北滿洲に入り、哈爾賓、滿洲里等を經過して後貝加爾州に轉じ、六日チタに到着したり、此の地にてセメノフ將軍と交

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

渉し、我が駐屯師團司令部及び特別機關部等を訪ひ、翌日再び汽車にて西行しウエルフネウヂンスクより貝加爾湖に沿ふて走り、九日イルクーツクに到着したり。イルクーツクはエニセイ河の上流アンガラ河の岸に立てるイルクーツク縣の首府にして、風俗人情、東部西伯利亞中にありて最も露西亞本部の風を存じ、旅客をして頗る快感を催さしむるものあり。此の地に圖書館あり、インスチユートあり、博物館あり、文化の設備頗る見るべし。是に於て余は先づ博物館に就きて種々の調査を試みたり、博物館にはエニセー河の上流地方に存在せる考古學上の遺物、及びイルクーツク縣後貝加爾州等に現住せる土民の風俗習慣に關する諸品を陳列し、設備甚だ完整せるが爲め大に斯學上の知識を得たり。次にインスチユートに於て學者を訪問すべき考なりしが、時夏期休業に際して皆な遠く避暑に赴き、逐に會見する機を得ざりき。依りて書肆を渉獵して書籍を購入すること若干。遠來の目的略ぼ達したると同時に、東部方面の調査急を要するに因り、詳細の實地調査は之を後日に讓りて、七月十二日イルクーツクを發し、再び貝加爾湖に傍ふて歸路に就けり。

七月十四日チタに歸着す。チタはコサツク軍團本部の所在地にして、セメノフ將軍亦此に駐在す。余は例に依りて種々の調査を試みたりしが、其の内最も主要なるはブリヤート族の調査なりき。蓋し當時此の地にブリヤートの喇嘛の大會ありて、余の調査に數多の好資料を提供したればなり。ブリヤートは西伯利亞居住の蒙古族にして、其の分布せる區域は、後貝加爾州の北部を除ける全部よりイルクーツク縣の東部地方に及び、人口二十五萬を有す。彼等は久しく露西亞に屬すると雖も、其の風俗習慣は依然として蒙古の舊風を保持し、其の奉ずる所の宗教も佛教にして、西藏の達賴喇嘛を深く尊崇す。各村落概ね喇嘛の寺院あり、規模宏大なるもの亦少なからず、而して之を統轄する所の大喇嘛なるものありて、非常に勢力を有し、全ブリヤート族は之に依りて支配せらるゝの狀態にあり。此の大喇嘛先日死去せしを以て、後繼者を選擧せんが爲めに各寺院の僧侶チタに集合し、茲に大會を開けるものにして、余は之に出席すべき機會を得たるなり、又ブリヤート族獨立の計畫ありて、其の本部チタに設けられたるが爲めに、之に出入するブリヤート人多く、此等の人々とも屢々會見するを得て、ブリヤート調査の上に頗る利益を得たり。此のブリヤートに就きては後に精しく述ふる所あるべし。

十七日北滿洲方面の調査に着手せんが爲めにチタを出發し、オーノン河の鐵橋を渡り、東清線によりて南走しダウリヤ驛に下車したり。驛の所在地は既に荒曠たる蒙古的地勢に屬し、停車場の如きも砂磧の上に設けられ、其の附近は宏大なる兵營の屹立せると兵

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

營に關する商人の店舗少許存在するに過ぎず、四望荒寥として人目を傷ましむるものあり。內蒙古人、ブリヤート、ダウルの諸兵此の兵營に駐屯し訓鍊を受けつゝあり。ダウリヤは南に蒙古を控へ東に滿洲を制し西北に西伯利亞黑龍江の流域を扼す、洵に形勝の地なり。故に露國が東方に雄飛せんとするや、先づ此の地を相して大兵營を設備し、少くとも一軍團の兵を此に駐屯せしめて、一朝東方に事あれば、咄嗟の間に大兵を派遣するの川意をなしたるなり。其の兵營の規模雄大にして眞に四隣を睥睨するの偉觀を呈するは偶然ならずといふべし。而して露西亞は此の策源地の機密を保つに勉めて、初め汽車の此の地を經過するや、特に車窓のカーテンを下さしめて、旅客の地形を窺ふを嚴禁したる程なり。歐洲大戰の勃發するに及び、露西亞政府は駐屯兵を擧げて戰線に赴かしめ、爾後大兵營は空屋となりて塵埃の堆積するに委せしが、今や露人以外の內蒙古人、ブリヤート、ダウル諸兵の占據する所となれるなり。是等の兵は、各種の民族を包含すると共に、其の年齡二十より三十の間にして、概して大差なく、人類學的に身體を調査する上に於て甚だ好都合なるにより、彼等兵士の身體を測定し、斯學上大に利益を得たり。

右の調査を終るや、再び汽車に搭じて滿洲里に向ふ。此の附近の地勢は南に外蒙古を望み、遠く戈壁の砂漠に連接し、滿目砂礫と雜草のみにして、實に廣漠たる原野なり。

汽車の南進するに隨ひ、處々に洪水の横はるが如きものを見る、是れ卽ちミラージなり。往古我が武藏野の旅行家屢々逊水なるものを說けり、茫々たる草原に彷徨して、神餒へ體疲るゝの時、忽然前路に當つて一帶の水影を見る、而も近づけば消滅して又前方に現はるといへるもの、蓋し又此の類なるべきか。斯くて汽車は滿洲里驛に到着したり。滿洲里は露西亞と蒙古との境界點に立ち蒙古貿易上重要の地點なり。殊に東淸鐵道を控へて運輸交通至便なるが爲めに、西に於ては恰克圖賣買城、東に於ては海拉爾の商業漸次此の地に奪はれ、影響甚だ少なからずといふ、若し滿洲里にして將來益々發達せば、荒涼寂寞の天地に一大繁華を現出するに至らんか。現に今日の如き露西亞人支那人の出入多く蒙古人も亦來集しつゝあり、商業上將來注目すべき要地なりと謂ふべし。此處に呼倫貝爾政廳の出張所あり、余は此の地にも聊か調査する所ありき。

次に海拉爾に往く。此の地は蒙古、北滿洲の黑龍江省、西伯利亞との三角點の集合する所にして、頗る興味を感ぜしむるものあり。其の位置たるや興安嶺の西、アルグン河の支流海拉爾河の上流地帶にありて、地質は總て砂土なり。此の海拉爾河は、太來諾爾、貝爾諾爾、兩湖の水を合せてアルグン河に注ぐものなり。斯かる位置に存在するが故に、種々古來の殘存せる人種を見ることを得、例へば蒙古人中のバラカ蒙古あり、ソロン人

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

あり、ダウル人あり、尙ほ附近にオロチヨン人の居住せるものあり、卽ち西伯利亞、滿洲、蒙古の三方面に於ける各民族の集合場にして、而もソロン又はダウルの如きは、人種學上ツングース族なるか將た蒙古族なるか、殆んど區別すべからざる程の興味ある種族なり。斯かる民族の集合場なるを以て、此の海拉爾を中心とする所の調査は、人種學上甚だ大切なるものとす。加之、之を政治上より觀るも、滿洲、蒙古、西伯利亞三地の大衝點にして、支那及び露西亞の利害關係頗る複雜なるものあり。又商業の點より觀るも、古來より貨物の聚散頻繁にして、賣買城と同じく支那邊疆の一中心市場なりき。故に清朝に於ても海拉爾を重要の地と認め、特に衙門を此に設けて滿人の官吏を常に駐箚せしめたる程なり。近時海拉爾附近を中心として、呼倫貝爾といへる政廳此處に設けられ、支那政府の手を離れて自主獨立の國をなしたり。此の獨立には背後に露西亞操縱の手潛みしが如きも、兎に角支那より獨立したるは事實なり。而して此の政廳に屬する民族は、ダウル人、ソロン人、バラカ人、オロチヨン人其の他尙ほ種々あり、人口一萬人餘を算す。而して政廳は獨立權を以て紙幣を發行し、布令布達をなし、租稅の徵收をも執行す在留の支那商人も、甘んじて租稅を納附するの狀態なり。興安嶺の西、海拉爾を中心とせる一廓に於て、斯かる政廳の存在することは頗る注意すべきものとす。而して政廳を組織する人々は、固より支那人に非ず又露西亞人に非ず、一種特別なる民族の結合に依るもの、亦興味ある事實と謂ふべし。余は往年蒙古旅行の際、海拉爾の南方近くにまで來りしことあるも、足親しく其の地を踏みしは今回を以て始めとす。依りて呼倫貝爾政廳の手を經て此の地に於ける種々の調査をなし、又海拉爾河の沿岸に存在せる古き考古學上の遺蹟をも調査し、尙ほ近時學術上の問題たるソロン民族の部落二三を訪ひ、傍らバラカ人の部落をも調査したり。ソロン人は昔より一種慓悍の氣風を帶びて、康熙乾隆の際清軍の露兵と戰ふや、每に其の先鋒たりしは彼等なりき。故に清朝は其の勇を嘉し之を以て八旗に編入せし程なり。其の風俗習慣は蒙古人等に比して頗る趣きを異にするも、現今海拉爾河の沿岸に居住するソロン人を見るに、其の風俗習慣は全く蒙古化せられたり。卽ち毛氈のテントを張り、家畜を飼ひ、又盛んに毛氈の製造を爲すが如きは、最も能く蒙古の風に類せり、殊にバラカの蒙古人とは、風俗習慣の上に於て殆んど區別すべからず。唯だ異なる所は宗敎の點にして、ソロン人は蒙古人の如く喇嘛敎を信ぜず、純然たる薩滿敎の信者なり。故に家々薩滿の神像を安置し、崇敬怠らず。神像は駱駝の毛を繩にしたるものにて人の形を作り、之を毛氈の上に附着せしむ。此の像は男女二體相並び、常に粟などの食物を其の口に供するの風あり。此等は蒙古人の無き所のものな

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

り。尤もバラカ蒙古人の中には、喇嘛を信仰するものと薩滿を信仰するものとの二あり。此の薩滿を信ずる所のバラカ人と比せば、全く同一のものなり。ソロン人と殊に海拉爾附近のソロン人が如何に蒙古化せるかは、之に由つて知ることを得べし。啻に此の風俗習慣が蒙古化せらるゝのみならず、其の固有の言語まで蒙古化せらるゝもの多し。例へば日常の談話に於て、ソロン人相互の間にはソロン語を使用すれども、一度び蒙古人若くは其の他の人に對する時は蒙古語を使用するの類なり、此等は頗る注意すべき點と謂ふべし。

ソロン人の調査を終るや、再び海拉爾に歸り、汽車に搭じて興安嶺方面に向ひ、山中の布哈多といへる停車場に下車す。余の布哈多に來れる目的は、此の附近に遊牧せるオロチヨン人を調査せんが爲めなり。抑もオロチヨン人はツングース種族に屬し、其の地理學的分布は、此の布哈多附近より興安嶺に傍ふてアルグン河畔の山中に及び、更に黑龍江を越へて北方露領のアムール州にまで達せり。オロチヨンの本體より云へば、馴鹿を率ひて水草を追ふにあるも、黑龍江を渡つて南方興安嶺方面に居住するオロチヨンは、馴鹿を有せずして寧ろ馬を有す、卽ち馬オロチヨンなるもの是れなり。此の馬を有するオロチヨンは興安嶺中の山林地帶に游牧しつゝあり、彼等の生活は常に森林に伴ひ、昔は弓矢を以て今は小銃を以て、野獸を獵するを日常の業務とす。故に野獸盡きれば勢ひ其の地を去らざるべからざるを以て、彼等の住所は一定する所なく、唯だ野獸を追ふて森林中を處々游牧するを常とす。而して其の一時居住する所は、木の枝を集めて壁となし、上に樺皮又は獸皮を蔽ふて雨露を凌ぐ、其の構造極めて簡單なり。余が彼等の部落を訪ふや、會々ブリヤートの土人此の附近に來れるに逢ひ、之を案內者として興安嶺中の針葉樹或は白樺の森林中を處々彷徨せしが、竟に彼等の一人にも逢ふこと能はざりき。然れども彼等の住居せし家は各所に發見せられたり。其の構造を見るに、一本の丸太を棟として、之に支木をなし、其の上に萱の類を蔽ひしものにして、極めて粗造なる小屋なり、而して熒火をなせし跡。或は石を立てゝ竈となせし跡を存す。余は小屋の附近より彼等が靴の中に入るゝウラ草の殘り物及び樺の皮等を拾收せり。此の附近のオロチヨンは、夏季黑龍江の木流地方に往き、冬季に及んで此の山中の小屋に歸り、それより野獸を獵するを以て例となす、彼等が當時不在なりしは此れが爲なり。余が三日間山中の彷徨は、一人のオロチヨンを見ざりしが上に、或は水なき谷地に渴を忍び、或は密林に入りて出づる能はざる等、幾多の困苦を嘗めたりと雖も、一方又意外の利益を得たるものあり、卽ち山林中に於て石器時代の遺蹟の存在を確めたることにて、有史以前より此

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

の地既に人の占居する所なるを知れり。抑も興安嶺中に往古より人の住居せしは、今回始めて發見せられたるに非す、前年余が東蒙古旅行中、既に興安嶺中に其の遺蹟を發見したることあり、例へば阿魯科爾沁、東烏珠穆沁、西烏珠穆沁等に於て認たるもの是れなり。此れに由つて觀れば、興安嶺一帶に亘りて昔より人の住居せしことあるを考ふるに足るなり。興安嶺附近の調査を終れる後、嫩江に傍ふて南下し齊々哈爾に達せり。齊々哈爾は北滿洲黑龍江省の省城なり、東三省の省城中最も古風の都會にして、今日猶ほ舊支那の面影を存ぜり。余は此の地に於て滿洲人及びダウル人の調査をなしたり。嫩江は興安嶺より出で齊々哈爾城外を流れて南下し、伯都訥を經、哈爾賓の近傍にて松花江に合流す。此の流域は古來ダウル人の位居せる所なりしが、康熙帝の時滿洲に征服せられ、爾來滿人も此處に移住し、ダウル人と滿人の家屋は各所に交錯して存在せり。又齊々哈爾より哈爾賓に赴く街道、及び北方黑龍江岸に達する墨爾根、瑷琿街道等に於て、驛傳の設けある所は概ね滿洲人若くはダウル人の部落なり。支那人の此の地に移住し來りしは、極めて後世の事に屬す。現今の齊々哈爾城の位置は、元とダウル人の住居せる所にして、其の形勝の地なるにより、滿洲人は之を選んで省城を築けるなり。故に滿洲人を調査して又ダウル人を調査するには、齊々哈爾附近は極めて大切なる場所と謂ふべし。尚ほ齊々哈爾より黑爾根を通じて愛琿に至れば、既に黑龍江本流の沿岸にして、河を渡れば西伯利亞のアムール州となり、ブラウエシチエンスクに達するを得べく、此の間頗る興味ある所なり。又黑龍江省は東三省中最も文化の後れたる處にして、百般の狀態昔日と大差なく、現に愛琿より墨爾根を經て齊々哈爾に至る間は、康熙乾隆の頃より有名なる交通路なるに拘らず、沿道の狀態は依然として舊の如く、殆んど進歩の跡を見る能はざるなり。齊々哈爾以南は卽ち蒙古にして、一面茫々たる沙漠地帶とす。

齊々哈爾の調査を終れば、舟にて嫩江を下り伯都訥を經て哈爾賓に往かんとする豫定なりしが、時旱天にして嫩江の水量減じ、舟を泛ぶるに堪へず、依つて再び汽車に搭じて哈爾賓に向ふ。沿道は廣漠たる平原にして彌望限り無く、樹木甚だ稀なり、是れ既に松花江の流域に入れるものにして、左右屢々村落の點々たるを見る。其の住民は概ね滿洲人にして、其の間に新來の支那人雜居し、間々市街をなして商業に從事す。此の村落も多くは昔より驛傳を設けし所にして、古滿洲の面影は、今猶ほ此の齊々哈爾、哈爾賓間に見ることを得るなり。

抑も露西亞が東清鐵道を敷設するや、之を經濟より觀れば實に何等の意味なしと雖も、唯だ海へ〳〵といふ大陸的の慾望より、苟も侵すべからざる天然の障礙に遭はざる限り、

浦鹽斯德を目標として一直線に線路を引きたるを以て、其の經過する所頗る不毛磽确の地多し。然れども此の放膽にして無遠慮なる敷設は、各種異民族の部落を縱横に貫通したるを以て、我が人類學人種學の研究家に取りては、便利を與ふること少なからず、余も之が爲めに相當の收獲を得たり。試みに一例を擧れば後貝加爾州のチタを出發して南下するや、線路は處々ブリヤートの村落を横斷し、更にオーノン河を渡りて愈々東清線に移るに及び、廣漠たるブリヤートの廣原地帶眼前に展開し、牛羊戯れ駱駝の眠るの狀を見るを得べく、又ブリヤートの村落を貫通する所もありて、坐りながら其の生活狀態を知るの便あり。進んで滿洲里を過ぎ海拉爾に到れば、兩所共に各種民族の雜居せるありて、比較研究に最も興味あり。殊に海拉爾の如きは、興安嶺以西に於ける支那物資の供給地にして、若し此の都市無くんば、支那文化の影響は直接之を土人に傳ふることを得ざるなり。故に古より海拉爾の位置は深く重要視せられたりき。物資を海拉爾に運搬するに際し、支那人は興安嶺の險を冒し非常なる困難を以て齊々哈爾より輸送したるものなり。尤も南方より此の地に通ずる道路無きに非ずと雖も、支那本部より蒙古を横斷するの險路なるを以て、貨物輸送の如きは容易の業にあらざりしなり。然るに東清鐵道の敷設せらるゝや、齊々哈爾方面より興安嶺を越へて、一直線に海拉爾に連絡し、今や交通至便

の地と變ぜり、唯だ齊々哈爾は城内を通過せず、其の南方に線路を引きたるを以て、多少の不便無しとせず、是れ露西亞式の然らしむ所なり。齊々哈爾は滿洲の發達史より觀れば、支那人が容易に之を建設したるが如しと雖も、彼の不毛の地に斯くまでの發達をなしたるは、非常の困難を伴ひしこと康熙乾隆以後の文書に徵して之を知るに足る。露西亞が此の如き不毛の地に拘らず、一直線に此の間を突破して哈爾賓浦鹽斯德に鐵道を敷設したるは、卽ち海へ〳〵の叫び聲に促されたる軍略上の計畫にして、商業上其他に於て何等の考慮を費ささりしは疑ふの餘地なし。而も此の大膽なる鐵道の敷設が、支那主權の地を自由に使用したるは成功と謂はざるべからず。然れども是れ露國の盛時に就いて言ふべきのみ、其の國勢萎靡せる今日に於ては、寧ろ支那人に利用せられて露西亞は何等益する所無からんとす。吉林省にせよ黑龍江省にせよ、東清鐵道に依つて繁榮を來しつゝあるは事實なり。而も此の東清鐵道は、我が南滿鐵道及び奉天にて南滿と聯絡する京奉鐵道と相通じ、支那本部との交通便利なるが爲めに、直隸若くは山東方面より支那人の移住を促がし、東清線の沿線各地に農業若くは商業の發展顯著なるは實に意表の外に出ずるものあり。是れ露西亞が東清鐵道敷設の當初に於て、夢想だもせざりし所ならん。而して今日過激派の勢ひ西伯利亞を席捲し、舊政府任命の下にある東清鐵道管理

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

者の勢威地に墜つるや、支那は單に鐵道の利用に甘んぜず。其の管理權をも自己の手に收めんことを計畫しつゝあるに似たり。此れに由つて之を觀れば、他國主權の地に鐵道を敷設することは、其の國勢の隆盛なる間は兎に角、一旦勢力を失墜するや、結局不成功に終ると共に、一方被敷設國は何等の創設費を要せずして、十分に鐵道の効用を專らにするの奇觀を呈すべし。此の情勢は今日東清鐵道に依つて旅行する者の明に看取し得る所なり。而も此の線の利用に依つて、我等の學術研究上大に利益を受くることあるも、此の一言附記するを禁ずる能はず。

八月六日哈爾賓に到着したり、此の旅行は鐵道從業員のストライキ盛んなりし爲め、或は出發の期を定むる能はず、或は出發するも一日僅に數哩を走つて停止する如き狀態にて、行程大に遲延したると共に困頓を極めたり而して到着後、虎列刺病大に哈爾賓に流行し、日々死者簇出して危險極まりなく、爲めに北滿旅行者は、辟易して哈爾賓に近づかず、現に長春より引返したる日本の學者もある程なりき。此の地にて多くの圖書及び研究材料品等を購入し、先づ一通りの調査を終りたるにより、北滿洲の調査は之を以て一段落となし、八月十一日哈爾賓を發して三たびチタに向ふことゝなれり。

鐵道從業員のストライキ猶ほ止まず、此の行又頗る困難を感じて、余が齊々哈爾に到達するまでの間に、二三度も使者を走らしたる程なり。殊に天氣甚だ暑く、一層困憊を極めたり。十三日滿洲里驛に下車して一泊し、翌十四日ブリヤートの曠原地帶を三度び經過して十五日チタに到着す。此の行堀井中尉の同伴せられたをる感謝す。

チタを中心として附近の調査をなし、又チタ博物館に就きて調査を試みたり。此博物館は規模相當に大にして、余の專門たるエスノグラフイーのものには、ブリヤート、オロチヨン等の標本あり、又考古學上の標本としては、オーノン河流域より發掘採集したるもの甚だ多く、大に利益を得たり。本館長は元三月黨なる國事犯者にして、流罪として此の地に配せられたるなり。彼の本國にあるや、盛んに過激思想を皷吹したるが、今は之に反する思想を懷抱せり。彼の語る所に據れば、余の初め過激主義を唱へし時は、理論として今日の如き慘憺たる結果を夢想だもせざりしなり。然るに今や過激主義實行の跡を見るに、寧ろ無智無能者の多數に依つて支配せられ、却つて恐るべき結果を見るに至れり。故に余は大に曩日の言動を悔へ、理論を高調するに當つて、先づ其の實行の結果如何を顧慮するに非ずんば、如何なる危險を將來するや測るべからざるを痛感したりと。此の言深く味ふべきに似たり。

チタの調査を終るや、フリヤートの部落を探檢せんと欲し、八月十九日チタを出發し

たり。一行は第三帥團の鈴江大尉、余の從卒、及びセメノフ將軍の好意を以て派遣せられたる嚮導者コサツク兵との四人なり。後貝加爾州は當時過激思想未だ勢を得ず、極めて靜穩なりしと同時に、探檢は成るべく少人數を利とするに因り、此の如も一行を以て出發したるなり。余の目的はブリヤートのセリケンスク盟の區域を調査せんとするにあり、乃も汽車に搭じてマゴアツィ驛に到る。マゴアツィとはブリヤート語にして、此處に同名の村落あり、鐵道は之を縱貫して走れるなり。此處にて下車したれども宿泊すべき家なし、よつて停車場内に雜臥して天明を待つ。二十日夢覺めて窓外を眺むれば、テントを張るの家、或は校倉式の廬點々散在し、傍に駱駝、牛等悠々として徘徊しつゝある等、全く朔北の光景を呈せり。此の附近は總てブリヤートの村落なるを以て、汽車の乘降者は殆んど皆なブリヤート人なり。一行は土人を雇ふて嚮導となし、蒙古馬車に乘じてアギンスコエといへる盟の役所の所在地に向ふ。一路茫々たる草原にして、殆んど一木一屋の目を遮るなく、眺望最も快濶なりしが、唯だ注意すべきは草間古墳の多きこと是なり。七里許りにしてアギンスコエに着す。此の地はブリヤート人の外、少數の露西亞人とブリヤートの雜種あり、一の市街的村落にして、日常必需の物資は略ぼ此にて辨ずるを得べし。唯だ當時過激派の騷亂によりて交運澁滯し、物資甚だ缺乏して憐れむべき狀態にありき。此の地に一泊し、翌日より一週間、所期の如く盟内調査の行程に上ることゝなれり。

此の旅行に就きて、當地役所の好意によりブリヤートの一役人を伴ひ、且つ馬車二臺を借用して出發せり。宿泊は概ね喇嘛の寺院若くは富豪の家にして、頗る快適なりき。余の調査せる地方は、オーノン河の支流アガ河の流域にして、住民は全くブリヤートに限られ、コサツクの村落は一も此の間に存することなし、其の光景は余が往年の蒙古旅行を追想するに足る。地勢はアガ河の上流地帶なるが爲め、多少の丘陵を見ると雖も、其の高度何れも低くして一種土隴の觀あるに過ぎず。而してブリヤートの村落は其の間に點々散在し到る處家畜の飼養盛んなり。ブリヤート人は此の家畜の爲め牧草を得るの必要より、概ね原野を焚燒するが故に、皆草地に化して殆んど一本の樹木をも見ず。唯だ此のアガ河上流地方のみは、多少樺、柳等を存して林をなす所あり。ブリヤートの家屋は概ね校倉式にして組立て、コサツクの住居に似たる所ありて、テントは極めて少し。同じく蒙古人に屬すと雖も、外蒙古の如くテント多からず。屋内には中央に火焚き場ありて其周圍に寢所を設く。家屋の形はコサツク風を模したれども、屋内の設備其の他の構造は純粹の蒙古式其の儘なり。風俗の如きも外蒙古と酷似し、食物は動物性肉類を主と

して、其の外乳汁を飲用するに過ぎず。言語も蒙古語の一に屬し、蒙古語を以て談話せば少しも差支なし。生活狀態は家畜を有するが爲めに富裕なり。露西亞は近來ルーブル紙幣の價額甚だしく下落したるが爲めに、人民は非常に困難しつゝあり、殊に物資漸次に缺乏せるを以て、一層困窮の度を增しつゝあるも、ブリヤートは物資として家畜を有し、其の價の騰貴したるだけ財産を增加したる如き境地にありて、露西亞人程に不自由を感ぜざるなり。要するに通貨の下落はそれだけ物價を高からしむ所以なるを以て、家畜を所有せるブリヤートは、其の關係上富力を增加し來れるものと謂ふて可なり。而して家畜の價は日一日と騰貴するが爲めに、彼等は惜んで之を賣らず。然れどもブリヤートは過激派に對して非常に恐怖心を有し、其襲來の日あらんことを憂ひつゝあり。曩に過激派一たび勢力を得し時、彼等の部落に侵入して家畜を奪ひしことあり。過激派はブリヤートを財産階級と目指しつゝあるが爲め其關係上彼等は恐怖心に打たれつゝあるなり。ブリヤートの村落には、大なる喇嘛教の寺院各所に建立せらる、旅客若し之に宿泊せば毫も困苦を感ぜず。ブリヤート人は我が日本人に對して大に好意を有し、寧ろ握手せんとするの傾向あり。余は彼等の村落に就いて親しく彼等を調査したり、尙ほオーノン河の流域及びアガ河の流域には、考古學上の遺蹟極めて多し。例へばクルガン即ち墳墓の如きは其主たるものなり。此の附近の墳墓の形式は、長方形の塚を設け、石を柱の如くに立てゝ其四周を圍めり、而して此の墓は多數群をなして存在するを常とす。此等は蒙古人が未だ此の地に入り來らざる以前に、土耳古民族の遺せるものなり。此の附近に蒙古人の入り來れるは、元朝の頃にして、隋唐の頃は全く突厥民族の占居せる所とす。故に此等の墓は、當時突厥民族の遺せるものと見るべきなり。此の處より出づる遺物に、鐵器、銅器其の他種々あり。又オーノン河の流域には、元時代の遺物存在せり。尙ほ突厥時代よりも古き石器時代のものも殘存せり、例へば石鏃の如き石斧の如きもの是れなり。此等の調査も成し遂ぐるを得たり。此の方面より出でたる種々の遺物は、多くチタの博物館に蒐集せられ、現に館内に陳列せられつゝあり、此等の材料と比較して、余は斯學上大に利益を得たり。ブリヤートの調査は此の如く一週間の行程を以て終りしが、之に就きて尙語るべきはツングースなり。ツングース民族は、ブリヤートの住居せる後貝加爾州の東部卽ちオーノン河の流域に少しく存在せり。此等のツングースは寧ろ蒙古化されたる民族と謂ふべくして、風俗習慣悉くブリヤート式となり、言語も固有のツングース語を失ひてブリヤート語を使用せり。此の如き狀態は、殆んど此の附近のツングースなるものはブリヤートに依つて征服せられたるの氣味あり。故に一見其のブリヤ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ートなるかツングースなるかを區別すること能はず。余はブリヤート人と共にツングースの部落を訪ひし時ブリヤートは彼等を穢多非人の如くに取扱ひ、其の屋内に入りて茶を飲み烟草の火を點ずることをも嫌忌せり。是に於て余は竊かに考ふる所あり、彼のブリヤート即ち蒙古人は、如何に古來より慓悍を以て誇り雄族を以て自任せるか、若し此の附近に露西亞人なるもの微りせば他の民族は恐らく蒙古人に依つて統一せられしやも知るべからず、今日ブリヤート人が獨立を叫びつゝあるより考ふるも、此の如きことは有り得べしと想像するも不當ならざるべし。

此等の調査を終りて歸路に就き、オーノン河畔の停車場オーロンナヤ驛に到る。驛は東清鐵道の鐵橋河に架する所にあり。此處より汽車に搭じ、北上してカルイスカヤに到着す。カルイスカヤはチタの方面より流れ來るインゴタ河の流域にありて、東清線と黑龍線の接合する所なり。露清條約を以て有名なるネルチンスクは其の稍々下流にあり。カルイスカヤより黑龍線に轉乘して、スレーテンスクに到着す。スレーテンスクはシルカ河の沿岸にありて、アムール汽船の發着する所なり。これより上流は水淺くして汽船を溯上せしめ難く、丸木舟の如きものを以て航通するの外なし。スレーテンスクは此の如く水路の要衝に當るを以て、市街殷賑、露國の官衙あり。劇場等の設けもあり、人口約一萬を算す。然れども今は過激派騒亂の影響を受けて市況振はず、住民は頗る生活に困難しつゝあり。シルカ河は此の附近より水量漸く增加し、幅員二百間許りにして、渡船場の設けあり、以て對岸との往來に便す。余は此の地に滯留すること數日其の附近に於て石器時代の遺蹟を調査したり。

九月一日、余は愈々アムールを下つて東方の調査に着手せんと欲し、其の夜汽船中に宿して、翌二日を以て下江の程に上る。船は外輪の蒸汽船にして名をアドミラルマカロフといふ。抑もアムール航行の汽船は總て外輪船にして、其燃料は石炭を用ひず、皆な薪材を用ふ。蓋し沿岸樹木多くして、購入の便、價格の廉、遠く石炭に優るものあればなり。而して薪材は主として松を用ひ、沿岸處々に山積して汽船の用に供す。船は之が積込みの爲め、又船客船貨の搬上搬下の爲め、寄港すること甚だ多く、且つ停泊時間長きに亘るを以て、余は此の機を利用し、各所に上陸して種々の調査をなしたり。シルカ河の沿岸は主として露西亞人の住居する所にして、點々たる村落概ねコサックの集團より成れり。左右に此等の村落を顧望しつゝ、船は漸次流れを下りて遂にアルグン河の合流點に達す。アルグン河は源を蒙古の太來諾爾、貝爾諾爾の兩湖に發し、海激爾河の水を合せ、興安嶺の西方を流れて黑龍江に入る。此の合流點より以下を黑龍江と稱す、上流は卽ちシルカ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

河なり。オロチヨン人は此の附近に住居し、時々丸木舟を浮べて江を上下するを見る。アルグン河の合流後、黑龍江の水量愈々大を加へ、興安嶺の山脚を洗ふて流る。岸上に樹木多く、支那人之を伐りて筏を造り、盛んに下流に送りつゝあり。スレーテンスクより此附近に至るまで、兩岸の山脈時々川に迫りて斷崖絶壁をなし、急流激湍處々に奇景を呈するあり、又針葉樹の處女林鬱蒼として岸上に連り、白樺其の間に粧點して樹影を江水に翻へすあり、山水明媚、眞に人をして畫中を行くの想ひあらしむ。アルグン河の合流點を少しく下れば、有名なるアルバヂン驛あり、是れ亦コサックの村落にして、船暫く此に泊す。

九月六日ブラゴウエチエンスクに着し、船を棄てゝ上陸す。スレーテンスクを發せしより此に至るまで航程正に五日。ブラゴウエチエンスクは露領黑龍州の首府にして、各種の官衙あり、市街殷賑、商業頗る盛んなり。此の地は昔より殊に資産家多く、街衢整然市民沈着の風あり。蓋しゼーヤの金鑛に近く、此に利を獲しもの多く來住すると共に、金鑛の隆盛は終始此の町を霑せばなり。之を我が國に例せば大阪の如きものにして、所謂町人の都會なり。圖書館、博物館等の設けあり、博物館は規模小なれども、ダウル族の土俗品及びヤブロノイ山脈の北方なるヤクート族の土俗品多く蒐集せられ、尙ほアムール附近の石器時代の遺物を採集せるものも亦少なからず。余はこれに就いて種々調査をしたり。抑も此の地方は子ルチンスク條約に依つて露領に歸したる所にして、黑龍江を境界とし、其の北方は露西亞に南方は支那に屬せり、卽ちブラゴエチエンスクの對岸は支那黑龍江省の有名なる愛琿にして、歷史上最も記憶すべき所なり。依りて余は川を渡りて之に赴き少しく調査する所ありき。愛琿は黑龍江の右岸に立てる都會にして、支那の衙門あり、前方水を隔てゝブラゴウエチエンスクと相望み、後方驛路によりて墨爾根、齊々哈爾と相通じ、洵に要衝の地なり。此の齊々哈爾に到るの驛路は黑龍江省の大道にして、嫩江流域より黑龍江畔に往來するもの、昔より皆な此の路に依れるなり。康熙乾隆の頃露西亞と事あるや、淸兵の大に活動したる策源地は卽ち此愛琿にして、ムラヴィヨフをして更に著名ならしめたる愛琿條約の締結も亦此の地なり。然れども今日の愛琿は、頗る寂寞として此の歷史上の盛名に似ず、商業も亦不振の狀態にあり。戸數約四千、人口八千人許り、纔かに現狀を維持しつゝあるものゝ如し。唯だ其の地大河の岸にありて形勝を占むるが爲めに、遠く之を望めば頗る美觀たり。要するに余はアムールの長流を下り來つて、始めて支那らしき市街を見たるは此の愛琿なり、況んや此の地は昔時北方に雄飛したる滿洲朝廷勢力の策源地として、邊疆の一重鎭たりしに於てをや。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其の點に於て愛琿は歴史的に最も興味ある所なり。然るに近來愛琿の上游七八里の黑龍江畔、ブラゴウエチエンスクと直前相對する地に黑河といへる新市街勃興し、逐年繁榮を加へて今や愛琿を凌駕するに至れり。而も市街の膨脹は猶ほ盛んにして、家屋の新築相續ぐが爲め、黑龍江の上流より支那人の筏を造りて此に流下し來るもの少なからず、將來の發展實に測るべからざるものあり。故に昨年我が國にても領事館を此に設置し、在留邦人の便宜を圖りつゝあり。此の黑河とブラゴエチエンスクと、尙ほ衰へたりと雖も彼の愛琿とは、今後如何に變遷し行くべきか、共に注目を要する地と謂ふべし。ブラゴエチエンスク及び其附近の調査を終りて、九月十四日再びアムール船上の客となり、長流に順ふてハバロフスクに向ふことゝなれり。先きにシルカ河を下りてアムールの本流に入るまでは、兩岸山近くして時々峽谷となり、山色船を壓して終始襄底を行くの感ありしが、漸くブラゴウエチエンスクに近づくに隨ひ、山勢次第に河岸を遠ざかりて平野展開し、心目覺へず轄然たるものありき。然るにブラゴウエチエンスクを辭して下江するや、此の光景は益々展開して兩岸全く山を見ず、唯だ一大曠野の茫々漠々として遠く天際に連り、雲煙糢糊として東西を辨せざるの間を、黑龍の長江滾々として貫流し去るを見るのみ、其の壯觀偉觀、之を上流のシルカ附近に比すれば、眞に別乾坤に入るの觀あり。川の左右は岸平かにして、處々に靑草を生じ或は矮小なる柳樹の雜生するに過ぎず。船次第に江を下り、ニコリスカヤ、インノケンチエフスカヤ等を經てビシコーに到着す、ビシコーはコサツクの居住する大村落なり。此の附近より地勢又一變し、小興安嶺南より來りて河岸に突出し、水流急に狹く、船は峽谷の間を縫ふて下る。暫く平野の空濶に見馴れたるの眼を轉じて、再び絶壁頭を壓するの境に入る、光景の變化、人をして應接に遑まあらざらしむ。此の峽流數十里、ブラゴウエチエンスクよりハゞロフスクに到るの間他に見るべからざるの好景とす。峽を出づれば江身再び廣く山次第に岸を離れて遠く雲煙の間に去り、大平野之に代つて展開し來れり。暫くにして松花江の合流點に至る。松花江は吉林黑龍江兩省の水を合せ、水量極めて大、古來黑龍江と其の本流を區別し難き程なり。此の水來り會するに及び、黑龍江の幅員は愈々廣く、積水淼漫、宛然一大湖の觀をなす。而して兩岸の平原は一層濶大、地平線の發達其の盡くる所を知らざるものあり。黑龍江の水は固より濁流なれども、松花江と合流してより更に其の濁を增し、茶褐色の水滔々として大平原を劃破し去るの觀、實に壯絶を極めたり。此の合流點を下ること少時、ミハイルセメノフスカヤといへる一村落に到着す。此の附近より始めて支那化せられたるゴリドの部落を見る。ゴリドは昔此の方面に於て多數住居し

たりしも、今は漸次減少して僅に支那化せられたる少數を殘すのみ。更に流れを下ること少時、前方に一抹の眉黛髣髴として天際に横はるを見る、是れ卽ちシホターリン山脈の烏蘇里江東を走れるものにして、身は愈々沿海州に近づきつゝあることを知れり。

九月十七日ハヾロフスクに到着す。黑龍江の旅行は一先づ此に止め、上陸して此の地に滯在することゝなれり。ハヾロフスクは沿海州の首府にして、舊露西亞政府の時、黑龍沿海兩州總督の所在地なり、露國東方經略の英雄として著名なるムラビヨフの駐在せしも亦此の地なり。ブラゴエチエンスクは我が大阪に比すべき商人の都會なれども、ハヾロフスクは役人の都會にして、卽ち我が東京に比すべきものなり。市街の建築物中、見るべきもの多くは官衙にして、總督府、總督官邸、兵營、州の役所、兵學校、女學校、師範學校等其主たるものなり。而して之に從業する官吏職員甚だ多數にして、市民は概ね之を華客として生活せり。卽ち役人を中心として成立せる都會にして、ブラゴエチエンクスとは大に趣きを異にすといふべし。位置は烏蘇里河と黑龍江との合流點にありて、丘陵の上に立ち、北は黑龍江に臨み、西は烏蘇里河を控へ、東方一帶にシホタアリンの連嶺を擁す。寔に形勝の地なり。試みに公園に立ちて望めば、前面黑龍江の巨流溶々として天際に流れ、其の兩岸に展開せる沖積層の平地は、廣々漠々として其の極まる所を知らず、覺へず人をして氣魄を雄大ならしむるものあり。當年の英雄ムラビヨフ、此處に立ちて感懷果して如何なりしか。彼の銅像は公園の一隅小丘の上に建てられ、手に望遠鏡を取りて遙に支那方面を睥睨し、勇姿實に活けるが如きの感あり。此の地に博物館あり、圖書館あり、地學協會の本部も亦此に設けらる。余は此の圖書館を訪ふて種々の圖書を翻閲し、又日々博物館に至りて調査し、標本に對して或は撮影し或はスケツチしたり。尙ほ各方面の學者或は官憲と會見して有益なる談話を聞き、調査上大に便利を得たり。我が西伯利亞派遣軍第十四師團の司令部も、當時亦此の地にあり、其の他海軍の本據地も此の附近に設けられ、領事館も此にありて、時々邦人と會見するを得、大に快心を感じたり。古代民族の遺蹟は市街の前又は丘陵の崖等に處々存在せり。又此の附近にゴリドの村落各所に散點し、余は其の内ツングース河流域に於ける村落を訪ふて調査する所ありき。

九月廿八日、アムール下流の方面を調査せんと欲し、再び外輪の汽船に搭じて黑龍江上の客となれり。ハヾロフスクの下流附近は、露西亞人の村落と土人の村落と交互錯綜して存在し、頗る奇なり。卽ち露西亞人の村落來るなり。此等の土人はツングース族のゴリドにして、漁業を以て生活し、殆んど皆な川の沿岸に住みて、深く内地に家するものなし。此

の風は單にゴリドに止まらず、黑龍沿海兩州に於ける各種の土人は略ぼ皆な同樣にして、概ね河岸若くは湖濱に生活す。故に土人を見んと欲せば、河川に傍ふて探求せば足れり、必ずしも深く內地に入るを要せず。此の點に於て黑龍江の汽船は余が爲めに便宜を與へたり。卽ち上流方面の航行と同じく、燃料の薪を積入れ、旅客の乘降貨物の揚げ卸し等の爲め、頻々として沿岸の各地に停泊するに因り、此機會を利用して上陸すれば、十分土人の調査を行ふを得べし、余は勉めて是を實行したり。下流に進むに隨ひ、地勢漸次變化し來り、一方右に當りてシホタアリンの山脈低く走れるが爲め、時々山脚の江に迫ることあり、又平地の其の間に展開するもあり。一方左岸は概して平地多しと雖も、又山根の河邊に突出すること無きに非ず。而して其の平地には湖沼各所に瀦溜し、頗る大なるものもあり。更に下流ソフィースクの邊に至れば、江の幅員一層廣濶となり、兩岸の草樹微茫として辨ずべからず。此の附近よりギリヤーク族の村落ゴリドのそれと交替して現はれ來る。而して岸上の地形は沖積層大に發達して沼澤地多く、所謂沮洳の地なり。ソフィースクの下流にマリンスクの市街あり、其の間にキジといへる大なる湖水あり て兩地を界す。これより下流に進めば、再び露西亞人の村落とギリヤークの村落と錯綜して現はれ來る。烏蘇里河の合流以後、大なる河水の黑龍江に注ぐもの無かりしが、河口に近づくに及んで、アムグン河西方より來り會す、蓋しゼーヤ河に次ぐの長流なり。此の河の沿岸にネグダ人多く住す。其の黑龍江に合する地點をチールといふ、此の地は歷史上注意すべき所にして、幾多の遺蹟あり。アムグン河と黑龍江との合流點に、一の小丘ありて突角をなす。元と其の上に有名なる永寧寺の碑石二基ありしが、前年露西亞人之を取り去りて、今は浦鹽斯德の博物館に藏せり。卽ち其の一基は明の永樂年中に、他の一基は同代の宣德年中に建立せしものなり。此の地は又明の奴兒干都司のありし所にして、當時明朝は此處に役所を設け、此の附近一帶の土人を綏撫したるなり。碑文によて之を徵するに、奴兒干都司の勢力は遠く東方に伸び、樺太の如きも其の征服する所となりしを知るべし。又明朝は永樂年間此の地を占領して、奴兒干都司を設くると共に彼の河岸の丘上に觀音堂を建立したるなり。是れ碑文の明かに記する所なり。而して碑文の末に列記せる人名は、建立者より記者技術者其の他に及び、中に蒙古人の名も少なからず。又碑面の文字は漢女眞蒙古の數體より成れり。此に依つて見れば、明の永樂年中此の地を征服せし時に、蒙古人は既に多く此處に住居せしを知るに足れり。蒙古人が明初に於て此の地方に多數存在するの事實は、既に元朝の時より彼等が此に來住し其役所等もありしことを意味するものなり。又女眞文字を碑面に刻する點より觀れば、女眞人

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

も此の附近を中心として相當の聚落をなし、且つ他の地方よりも比較的開化しつゝありしを考ふるを得べし。黑龍江はアムグン河を入れてより、其の北流せる方向を一轉して東に折れ、ニコラエフスクに至つて海に注ぐ。

十月三日遂に黑龍江の全流を航してニコラエフスクに到着し、暫く此に上陸して調査することゝなれり。ニコラエフスクは黑江龍の河口に於ける有名なる港にして、樺太との往來に最も便利なる所なり。此の港は初め軍港として設けられたりしも、軍港の浦鹽斯德に移るに及び、主として漁業に依りて發達し、今は漁業本位の都會として兼ねて黑龍江下流の貿易中心市場たり。我が領事館も此に設置せらる。住民は露西亞人多數にして商業も盛んなりしが、近來過激派騷亂の影響を受け頗る衰微の觀あり。此の地に於ける考古學上の調査としては、石器時代の竪穴甚だ多數に存在せるに依り主として之が調査をなし、又學者學校等を訪問して種々斯學上の意見を交換したり。當時我が西伯利亞出征軍の派遣隊一大隊許り此地を守備せるに依り、其の警備船を借用して黑龍江を溯り、彼のチール附近を處々回航して、ギリヤーク、子グダ等の調査及び永寧寺の古跡探撿等をなしたり。チール附近はギリヤークの中心地として、彼等を調査するに最も好都合の場所と思はる。彼等は純然たる漁業の民族にして、鮭又はちよう鮫等を漁獲し、其の賣上げ高頗る多きを以て、相當の生活を營みつゝあり。ギリヤーク族は樺太にも居住し、其の風俗習慣最も古樸を極む。黑龍江畔のギリヤークも全くこれと同じく、亞細亞諸民族中に於て最も古風なる風俗習慣を有せり。頭髮は散髮にするものなく、家屋は校倉式多く、其の古きものは百年以前の建築猶ほ存在せり。老人も多く、七八十歳の老爺に遇つて其の語る所を聞くに、我が父の代には、一年日本に行き一年滿洲に行き、隔年毎に兩地と往來して物資の交換をなしたりといへり。彼等は樺太を以て日本と見做し、樺太に行くといふをシザムに行くといへり。シザムは卽ち日本の意味なり。以て彼等の祖父と我が日本と交通貿易の關係ありしことを知るに足れり。彼等か樺太に往來すると共に、樺太に於けるギリヤークも滿洲に往來し、互に交通を密にせしは言ふまでもなし。此等は日本人の最も注意を要する點と謂ふべし。黑龍江の河口より溯つてソフイースク附近に到るまでの間は、全くギリヤークの分布地帶なるが、是に於て想起せらるゝは間宮林藏の『東韃旅行』なり。間宮氏は文化六年樺太より舟に乘じて海峽を横斷し、黑龍江流域に入りて一ヶ月許りの調査をなし、其の年樺太に歸來したり。其の調査に據るに、當時露西亞人は一人も此の黑龍江下流に存在せざりき。當初間宮の考へは、露西亞の黑船が我が北地を侵すは、恐らく彼等の本據地が黑龍江方面に存在するが爲めならん、故

にこれが實況を調査せんとするにありき。然るに實地踏査の結果は豫想に反し露西亞人は一人も黑龍江下流に存在せず、只だデレンといへる所に滿州政府の役所ありて、年々暖氣に向へば三姓地方より官吏出張し來りて、此の地に於ける諸民族の交易を管理するの事實を明にし、右官吏と會談したるに過ぎず。此のデレンといへる地點はソフィースクの上流にありて、一六八一年出版ラベンスタイン氏の『アムールの露西亞人』に據れば、東經一三八度2/3、北緯五一度1/4の位置にありと記せり。彼は片々たる夷舟に乘じて兎も角此の地まで黑龍江を溯上したるなり。彼が此に到れる道筋を見るに、樺太より海峽を横斷してデカストル灣附近に到着し舟を擔ひてタバ峠を越へ、小溪に浮んでキヂ湖に出で、之を通過して黑龍江に入れり。此のタバ峠といふは、日本海と黑龍江との間を走れるシホタアリン山脈の最も低き峠にして、之を越ゆれば黑龍江に達するに最も近くして且つ容易なり。樺太方面より日本海を經て黑龍江に溯上するに當り、若し水路にのみ依らんとせば、河口を迂廻せざるべからざるを以て大に時日を要す。依つてシホタアリン山脈の最低山路たるタバ峠を擇び、其の急勾配無きを利用して小舟を擔ひ上げ、水路を得るや直ちに舟を卸して黑龍江に達するなり。間宮の此の道を取りし當時は、今日のマリインスクは固より存在せず、沿岸ギリヤークの村落に處々舟を寄せて、遂にデレンにまで

黑龍江を溯上せしが、其の歸航に當り、同行の土人は先きの來路に依らんとせしも、間宮は地理探窮の必要より、假令危險を冒すことあるも、流れに順ふて河口に出でんことを望み、遂に黑龍江を下りて海に出で、水路のみにて樺太に歸れるなり。彼れが此の一ケ月間の黑龍江旅行は、實に一の世界的事業にして、其の旅行記なる『東韃記行』は、此の附近の文書として最も世界的に知られしものなり。ギリヤークの家屋校倉等は今猶ほ百年以上のもの存在す、當時間宮の宿泊せしもの或は其の中にあることなからんや、夕陽影裏のギリヤーク村落を回望して、余は無量の感慨に禁へざりき。兎に角間宮の黑龍江調査は甚だ貴重なるものにして、露西亞人が此の方面に手を出したるは之より四十餘年を後れたる一八五三年の頃なりき。而して露人の探撿隊は、シーボルドの翻譯したる間宮の『東韃記行』を案内書として其の行動に資したる點多し。當時露人の著はしたる古き旅行記を見るに、正しく其のことを明記して、殊にキヂ湖若くはタバ峠の位置に就きては、『東韃記行』に依つて大に辨ずる所ある程なり。此の點に於て黑龍江の調査に先鞭を着けたる彼は、大に尊敬すべき先覺と謂はざるべからず。此等の調査を遂げ、尙ほニコラエウスクに於ける殘餘の調査を終り、再び黑龍江を溯上してハバロフクに歸ることゝなれり。

茲に一言すべきは、余は初めニコラエウスクより樺太に往かんとの希望なりしも、之

な果さゞりしことゝなり。蓋し當時天既に寒く、間宮海峽の結氷し始めたることを通信に依りて知りたればなり。故に樺太の調査は他日の問題として之を保留し、機を見て實行せんことを期す。要するに黑龍江の下流と樺太との關係は最も密切にして、石器時代の遺物卽ち石器、土器或は竪穴の如きものは彼此皆な相類す。加ふるにギリヤーク族は樺太にも居住し黑龍江の下流にも分布せり、彼等が互に關係を有するは言を俟たざるなり。故に樺太と黑龍江下流地帶とを分離する時は、到底完全なる調査をなすことを得ず、兩地は必ず之を一に視ざるべからざるの關係を有するなり。

十月廿一日ニコラエウスクを發船して再び黑龍江に溯りハゞロフスクに向ふ此の歸航の途中も船の寄港を利用して各所に上陸し、考古學上及び土俗學上の調査を試みたり。漸く進んでハゞロフスクに近づくや、過激派起りて通行の汽船を襲擊すとの報あり、船內俄かに動搖し、護衛兵は武裝を嚴にして警戒する所ありしが、幸に事無く、警報は一つの風聲鶴唳に過ぎざりき。然れども一方に虎列拉病發生するありて、船客二三之が襲ふ所となり、寧ろ此の方に於て危險を感じたり。十月廿七日ハゞロフスクに到着し、再び此處に行李を卸して調査に從事せり。ハゞロフスクの博物館は、東部西伯利亞に於て最も有名なるものにして、沿海州及び黑龍州の或部分のものは務めて此處に蒐集せられ最も斯學の參考となすに足る。依つて余は日々之を訪ふて或はスケツチし或は撮影し、殆んど此處に收藏せる主なるものを自家藥籠の中に納めたり。其の他圖書館に於て圖書を翻閱し、學者を訪ふて意見を交換し、書籍論文等の蒐集買入れに勉め、又石器時代の遺蹟を踏査して十一月廿四日までを費せり。

十一月廿五日ハゞロフスクを出發し、烏蘇里線の汽車にて浦鹽斯德に向ふ。烏蘇里河の流域は斯學調査上最も大切なる所なるも、時既に降雪期に入りて山野雪に蔽はれ、地上の物を調査するに便ならず。且つ過激派蜂起して鐵道橋梁を破壞し或は汽車を顚覆する等、危險狀態刻々に迫りつゝあるが故に、到底途中下車して調査なす能はず。依つて此の方面の調査も之を他日に期し、直行浦鹽に向ふことゝなれるなり。然るに汽車も途中の危險を慮り、成るべく速度を緩にして右顧左盼し、軌道橋梁其の他の安全に小心翼々の注意を拂つて進行するが故に、殆んど牛歩の憾みあると共に、夜間は全然運轉を停止せる爲め、バゞロフスクより浦鹽斯德まで平時一日を要せざるの間を、約四日間を費して十一月廿八日午後九時頃纔に到着するを得たり、當時烏蘇里方面が如何に危險狀態に置かれしかは之に由つて知るべきなり。浦鹽に到着後、前調査の遺漏せる方面を調査し、更に十二月四日浦鹽の西なるニコリスクに赴き、午後二時頃到着するや、直ちに陸軍用

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自働車を借りて其附近の調査を行ひ、翌日露西亞の考古學者ヒヨードル氏の案内にて、再び自働車を驅りて附近の調査をなし、其の翌日亦之を續行したり。余は何故にニコリスクの調査をなしたるかといふに、次の如き理由あるに由れり。抑もニコリスクは綏芬河の流域に位置し、古き盆地にして、四方丘陵性の山に圍まれ、天然の形勝を占むると同時に、烏蘇里線と東清線との交叉點にして、沿海州、北滿洲交通の要衝に當り、坐して四方を制するを得べく、要害として最も有數の地なり。故に舊露西亞政府も此の點に注意し。此處に一軍團の兵を駐屯せしめて緩急に備へ、所謂武裝したる市街として存在したり。今日外國に對する關係上、浦鹽斯德は最も重要の地點として認めらるゝも、若し此の對外關係なくんば、ニコリスクは沿海州唯一の要鎭として最も重きを置かれし處なるべし。ニコリスク此の如く重要の地點なるは、單に今日のみに非ずして、渤海の起りし時も金の覇を稱せし時も、此の地を以て東方の一中心となしたるなり。此に注意すべきは、支那人がニコリスクを雙城子と呼べることなり。雙城子とは卽ち相對せる城といふ意味にて、此地に古き土城二基東西に對立するに由る。支那人は其の東なるを東城と稱し西なるを西城と呼ぶ。ニコリスクの市街は東城の內にありて、半は其の故址を利用せり。兩城共に土塀今猶ほ存す。西城は荒野の中にあり、風雨多年、其の荒廢するに任せ、滿目草莽又一人家を見ず。故址を探れば煉瓦斷片屋瓦の破片各所に發見せられ、轉た當年を追想せしむるに足る。此の二城を中心として、城內及び其の周圍には、古碑若くは其の基石、佛像、石人、石獸等を發見すること多し。此の附近が如何に昔時文化進歩の地なりしかは、之を以て知るべし。此の二城の外、又綏芬河を隔てゝ前岸の丘陵上に、地形を利用して築城せる山城式の故址あり、之を算すれば雙城に非ずして三城なり。此等の土城は果して何れの時代のものなるか。余の觀察する所に據れば、此の三城中最も古きものを渤海時代、之に次ぐものを金朝時代に宛てんと欲す。此の行東道の主人たるヒヨードル氏は、此の土城に就いて一の論文を草し、其の一本を余に贈られたるが、氏の說に據れば、今日ニコリスクの市街となれる東城は渤海時代にして、西城は金の時代なるべし、卽ち東城は西城よりも古し。次に綏芬河對岸の山上の土城は、同じく金時代のものにして、退却の時此に據らんが爲め後に設けしものならん、卽ち山上の土城は三者中最も新たなるものなるべしと。是れ氏が論文の大旨なり。然れども余の觀る所に依れば、此の東西兩城の故址より發見せらるゝ遺物は、其の間に格別年代の相違ありとも認め難く、隨つて其の何れが新なるか古なるかを斷言する能はずと雖も、兎も角兩者の一が渤海の城たりしことを考ふるものなり。强ゐて之を別てば、其の古色蒼然荒廢の

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

甚だしきより推斷して、西城を以て最古のものと信ぜんと欲すれども、又位置より之を察すれば東城は形勝の地を占むるが故に、是れ或は渤海の故城なるやも知るべからず。兎に角ニコリスクの地は、渤海時代より金時代まで連續して榮ゑ來りしを察すべし。啻に渤海時代のみならず、遼遠なる石器時代卽ち有史以前に溯りても、此の土地に人民の繁殖せしことを考ふるを得べし。何となれば、此の土地より發見せらるゝ遺物は、單に有史時代考古學の物のみに止まらずして、石器時代の土器石器も種々發見せらるればなり。況んや此の土地は周圍に山を擁し、中に廣き平地を包み、綏芬河其の中央を流れて、而も其の海に注ぐまでの流域は、頗る古代民族の生活に適するに於てをや。然らば此の土城を以て果して渤海時代のものとせば、之を當時の何地に當つべきか。學者或は率賓府に擬せんとするものあるも、余は東京龍源府を以て之に當てんと欲するなり。抑も渤海東京の位置に就ては、古來史家の說紛々たれども、余は從來朝鮮咸鏡道淸津の北方と推定したりき。是れ固より考古學上種々の証據によりて判斷したるものなれども、近時各方面の研究殊に今回實地にニコリスクを觀察したる結果、從來の考の誤りなりしを悟り、東京の位置を支那人の所謂綏芬河畔の雙城子卽ち今日のニコリスクの地に擬するに至れり。然らば是れ卽ち日本道にして、此の地より舟にて綏芬河を下り、更に其の河口たるアムールスキー灣より海船にて日本に往來せしものなるべし。又我が日本より渤海に派遣せられたるの使節も、船をアムールスキー灣に入れ、それより綏芬河を溯りて此の地に到着せしものならん。而してニコリスクより西方に走れる東淸鐵道の線路に傍ひ、今も一條の舊道を存じて牡丹江流域に通ずるあり、是れ恐らくは當時東京より寧古塔に往來せし道路ならんか。寧古塔が渤海の上京たることは爭ふべからざるの事實なり、然らば寧古塔の東に當れる今日のニコリスクの地は、之を東京に該當せしむること寧ろ妥當の見解なるが如し。此の如く解釋し來れば、當時日本の使節若くば他の日本人にして此の地を踏みしものあるべく、又日本の貨物にして此の地を經過し彼の舊道を辿りて寧古塔に行きしものもあるべし。ニコリスクの山川に對して徐ろに思ひを當年に馳すれば、一種言ふべからざる懷し味を感ぜざるを得ざるなり。此の渤海の東京の位置に就いて、從來之を浦鹽斯德に當てたる人多し、例へば那珂博士の如きは其の一人なり、博士の說は東京を以て浦鹽斯德の附近となすといふにあり。數年前鳥山文學士『渤海考』を著はし、東京龍源府の位置を今日の琿春附近に當て、而して余の淸津北方說を駁し又那珂博士の浦鹽附近說をも駁せり。其の浦鹽說駁論の主意は、若し浦鹽斯德附近に東京龍源府ありとせば、今日該地方に何等か其の証據無かるべからず、而も浦鹽附近は土地狹隘にして、東京の如きものを設

けらるゝ、地勢に非ずと。此の點に於て氏は那珂博士の浦鹽附近說に反對せられたるなり。是れ固より一理ある說といふべし。然れども那珂博士にして尙ほ一歩を進め、此のニコリスクの地を指定せられしならば、鳥山文學士の地勢論は其の駁擊の根據を失ひしならん。余は博士が何故に尙ほ一歩を進めざりしかを遺憾とせずんばあらず。余は那珂博士の說を是とするものなれども、其の浦鹽附近といふが如き漠然たるものよりは、明白に綏芬河畔の雙城子卽ち今日のニコリスクの地を東京に擬せんと欲す。ニコリスクは今日政治上及び地理學上より觀るも、極めて大切なる所にして、自然の形勝は雄鎭として十分なると共に、當時上京たりし寧古塔の位置より見るも、其の東方に當れる雄鎭卽ち東京龍源府なるものは、自づから此のニコリスクの地ならざるべからず、彼の石人、石獸、佛像、幾多の斷碑、磚片瓦片の簇出する等古代文化の爛燦たる表徵的遺物は、決して邊城僻戍の有する所に非ざるなり。卽ち此等遺物の大部分は、渤海東京の物なりと謂ふも河漢の言に非らざるを知るべし。此の點は我が學界の大に注意を要すべき點と信ず。

斯くて余は十二月六日の夜ニコリスクを辭し、翌七日の早朝を以て浦鹽斯德に到着せり。それより各種の殘務を處理し、愈々其の翌八日歸朝の船に上り、浦鹽を發して敦賀に向ひ、十日着港し、十三日東京に歸着せり。

以上は余が今回西伯利亞旅行として調査せし所の概略なり、其の間時日を重ぬること六ケ月以上に旅行せる區域は、イルクーツク縣、後貝加爾州、黑龍州、沿海州、薩哈連州及び北滿洲の黑龍江省、吉林省等なり。此の調査せる事項は、先づ人種學、考古學、歷史學等の上に涉れる點を主とせるものにて、此等の結果に就いては、余は不日或る形式に於て發表せんことを期す。尙ほ茲に一言すべきは、此の調査は單に以上の學術に止まらず、政治、經濟、商工業の方面にも關係する所少なからずと信ず、例へば土人の生活狀態如何、其の露西亞人支那人との關係如何、及び支那人が露西亞の混亂に乘じて突入せる狀態、朝鮮人が意表外にも烏蘇里、黑龍江方面に雄飛せる狀態等は勿論、各地方に於ける天產物の利用、物資需給の關係、及び一般の經濟狀態に就いても、我が國は大に注意するの必要ありと信ず。故に余が一個の立場より觀れば、純學術的に人種學、考古學、歷史學等の方面より此れが研究に專念ならざるを得ざるは勿論なりと雖も、此の研究の結果が國民の注意を促し、他の政治、經濟、實業等の方面に活用する上に於て、若し多少の裨益あらば余が望外の幸なり。一衣帶水を隔つる東部西伯利亞の地及び滿洲昨今の狀態を顧みて、余は更に此の感の一層切なるを覺ずんばあらず、茲に一言附記して他日研究の結果を發表すべき本文の序論となす。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大正十一年三月二十五日印刷
大正十一年三月三十一日發行

朝鮮總督府

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/